

今年はずしぶりに冬は長いと感じます。それだけ春が待ち遠しいかもしれませんが。冬の長さを感じるの、ほんの一時いや一瞬かもしれない。それは、朝起きてベランダの手すりに雪が積もっている光景を見て、あー、今日も除雪かと思う時。積み上げられた薪が、連日コンスタントに減っていき続ける時。それ以外は、日常の暮らしなので問題はありませぬ。

子どもたちは、冬が大好き。寒くて嫌だなんてことなく、むしろ一年中で一番創造的かつ持続的かつ継続的に飽きることなく遊べる季節かもしれません。子どもたちの冬のスロープでの姿を見ていると、寒くても大雪でも、とにかくあちこちで遊び続けています。ソリ遊び スコップソリ かまくら 焚き火 マメ焼き 土手滑り 雪ままごと 木登り 雪像作り 雪掘り とにかく 手持ち無沙汰でボーとしている姿はなく、歓声が響き渡っています。大きい子達は、定期的にクロカンに出かけ、天神さん・オタマジャクシ池・遠くの丘・教会横のリンゴ畑 とほぼこの四つのコースを巡り回っています。それぞれの場所で、行く度に発展した滑りを楽しんでいます。

とにかく、人工物がほとんど視界にない大地の環境。雪が降った朝、針葉樹や樹木に雪が張り付いている光景は、まさに北欧の森やドイツの黒い森を彷彿させます。そして、水田が真っ白い平原になる光景は、星野道夫のシベリアのそれを彷彿させます。そこに、映し出される子どもたちの遊んでいる姿は、まさに写真集や絵本やベスコフの世界です。クロカンでも、子ども達が雑木林を進んでいく姿を、最後尾から見る事が、大好きです。本当にファンタジーの光景です。それを見る時は、まだまだ冬が長く続いて欲しいと願ってしまいます。

大人は 冬はスキーやスノーボードで楽しみたいというイメージがありますし、子どもたちも、もちろん遊園地やレジャースポーツのように楽しむ事も刺激的で魅力ですが、主体的に創造的にそして発展的に想像力を膨らませていく世界は、やはり、子どもたちを見ていると、何もない傾斜地のある大地のスロープであるような気がします。手前味噌ですが、そんな何もない世界を探して、残りの冬を楽しんでみませんか。



## 【モンベルとパタゴニア】

夏は 登山のレインウェアなどでモンベルの雨具をよく見かける。更に、冬になると、アウトドアウェアは花盛り。数々のウェアの中でも、モンベルやパタゴニアがやはり目立つ。個人的にも 両方のウェアも長年着用してきたが、やはりパタゴニアは、スマートでかっこいい人にはお似合いである。我が子達が着ているとかっこいいが、私たち夫婦が着ると、袖が手からはみ出し、ズボンの裾がかなり余る。そして、腰回りがきつい。

その点、モンベルは 平均的日本人の体形に似合うように感じる。大抵、どんなものを選んでも、ほぼゆったりでストレスがない。スポーツでも日常の作業や農業でも汎用性があるって使いやすい。

パタゴニアは高品質、環境性、リサイクル、ファッション性などが優れているだけに、それに見合った値段でもある。モンベルも品質も優れ、ファッション性もあり、多様性もありながら、値段も手頃な物が多い。パタゴニアが都会的でちょっと上流であるならば、モンベルは、庶民でも学生でも手が届く一億総中流時代の流れを感じる。

ここで、どちらが優れているかの問題でもなく、個人の好みの問題であるので、そんな事はどうでもよいが、どちらも、創業者の精神が興味深いのである。

有名な「社員をサーフィンに行かせよう」の著者 シュイナード（パタゴニアの創業者）の経営論を15年ほど前に読んだ時、大きな感銘を受けた。勤務中でも、いい波が来たら、いつでも社員がサーフィンに行っても良いと言うのだ。「責任感」「効率性」「融通」「協調性」が個人 仲間全体にあれば、それが可能だと言うことなのだ。勤務中抜け出して行っても 自分の仕事を責任を持って全うさせる覚悟が必要だ。そのためにも、いかに自分の仕事を効率的にはかどるようにシステムを組み、時間を効率的に使える努力をしておくことが必要だ。そして、いつでも即出かける事ができるように、柔軟性を持って準備しておくこと、それが融通性。チームや集団では、その人がいなくなっても、他の人でもフォローできる（お互いの仕事を知っている お互いが助け合える 信頼しあっている）体制になっている、すなわち協調性が存在しているか と言うことらしい。

まず、これを夫婦 家族にあてはめてみた。今しかできない事 時期 天気、すぐに遊びに行けるか、実行 実現できるか。やることをきちんとすませ、それも限られた時間で、日頃から備えて、そして、皆で協力して。我が家の場合 出かけるには、日々の暮らし（掃除 洗濯 料理など）をきちんと済ませておかねばならない。限られた時間で済ませるには、朝早く起きて、夫婦で協力して効率的に料理掃除洗濯を行う。常日頃からいつでも戦闘準備遊びに出かけるグッズの準備をしておく。コンビニには頼らない融通性汎用性つまり ずくを出す 手間暇を惜しまない効率的動きをマスターしておく。そして なんとと言っても夫婦の協調性 得意な事を責任を持って効率的に行い、自分の手が空いたら、すぐに相手の手助けをして、相手を思いやり融通しあい、出かける迄の準備をし 少しでも早くスタートできるように進めていく。そして、出かける瞬間、やったね！！ と言う達成感のもとで、出発を祝う！！

先日の雪遊び鼻見城趾 クロカン遊び や おおぞらの飯綱登山や希望湖クロカン。ピーカンの天気が予想された。年少児の鼻見城趾のソリ滑り。年長児のバックカントリークロカン、好天に応じて、最大のパフォーマンスで楽しんだ。お昼で終了というスケジュールと好天という条件の中で、秘かに午後は、希望湖のスノーシューツアーを計画していた。早朝からパンを焼きお昼を準備して、車にスノーシューを積んでおいた。唯一の心配は、午前中のクロカンの疲労度だけ。しかしながら、楽しみへの期待は、人間を強くする！！ もちろん、あの坂有り谷有りのクロカンはさすがに足にきたが、希望湖の美しさあ、全てを帳消しにしてくれた。そして、三日前の飯綱登山。前々日前からのピーカンの天気予報。この日しかないでしょ！！ まさにいい波が来たらすぐに出かけよう という精神で、おおぞらさん恒例の冬山登山決行。史上まれに見る大雪の快晴無風澄んだブルーの青空、白い雪海原を満喫する事ができました。

**大地は 公私共々、いい波が来たら、即 戦闘準備に入れる柔軟性を持って進んでいきたい！！**

モンベル創業者 辰野勇さん アイガー北壁日本人最年少第2登 クライミングスクール開校して 28歳でモンベル創業。登山 カヤックなどに熱中しながら、自分自身が使いやすい物を常に考えながら、人々の幸せを願い、良質な商品を低価格で提供する事をモットーとしている。「自分達の手で自分達の欲しい山道具を作ろう」が社風

これにも、大地が大きく共鳴するところ。「自分が子どもだったら、こんな環境で遊んで見たい こんな暮らし こんな毎日を過ごしてみたい、そんな環境 大地を作りたい」これが創業の精神。まず、自分を子ども時代に置き換える、子ども心になってみる、自分が幼児だったら 小学生だったら、どんな環境で、どんな仲間や大人達と、どんな風に暮らしてみたいか、どんな事を体験したいか どんな心を揺さぶられたいか・・・など 「あったらいいな」「できたらいいな」「もっとこうだったらいいのにな」これもモンベルの合い言葉 大地もいつも現状に満足せず、常に更に面白い事（大人も子どもにとっても）を追求していく精神は同じ。

その意味では、モンベルもパタゴニアも、その創業者の精神は大好きだ。

先輩の70代の人達が、薄汚れた年季の入ったモンベルのジャケットを普段着で着て日常を暮らしている姿を見かける。知る限り、ほとんどの人は、かなり気合いの入った暮らしを体験してきた人達である。かっこいい！！